

植栽帯の環境対策について

川邊 好世

関東地方整備局 東京国道事務所 亀有出張所 (〒125-0051 東京都葛飾区新宿4-21-1)

国道沿いの歩道には植栽帯が設置され、道路緑化による快適で安全な通行区間が確保されている。しかし、歩道上にネズミが発見された地域住民からは植栽帯の撤去要望が寄せられる。本稿では、ネズミが巣を作っている植栽帯において、植栽帯を撤去しない方法で行ったネズミ対策について紹介する。

キーワード 植栽帯, 環境対策, ネズミ対策

1. はじめに

東京国道事務所では、歩行者や自転車利用者の快適で安全な通行空間を確保するため、道路緑化に取り組んでいる。国道沿いの歩道には植栽帯が設置され、主にイチヨウやプラタナスなどの高木、シャリンバイやツツジなどの低木が植栽されている。植栽を良好な状態に維持するため、定期的に剪定、除草、生育状態の確認を行い管理されている。しかし、歩道上にネズミが発見された地域住民からは植栽帯を撤去してほしいと強い要望が寄せられる。ネズミは植栽帯へのゴミの不法投棄や収集時間外のゴミ出しなどにより集まってしまう。その結果、近くの植栽帯に巣を作り住み着いてしまう。



図-1 植栽帯 (イチヨウ、シャリンバイ、ツツジ)

2. 関係機関との連携

2016年に亀有出張所管内の一部地域でネズミに関する苦情が多く寄せられた。ネズミは歩道上に捨てられたゴミを食べており、植栽帯には多くの巣穴が確認されていた。亀有出張所では植栽帯に殺鼠剤を撒いて駆除を行っていたが、駆除後も新たなネズミが住み着いてしまうため、地域住民からは植栽帯の撤去を強く要望されていた。植栽帯を撤去することでネズミが住み着きやすい場所を排除することは可能であるが、植栽帯も道路環境にとって無くてはならない設備である。また、ネズミ駆除のためには、ネズミが住み着く場所を排除するだけでなく、ネズミが集まりやすい環境を改善することも重要である。亀有出張所単独でのネズミ駆除は難しいため、関係機関と連携して対策を検討した。



図-2 植栽帯に作られたネズミの巣穴

(1) 亀有出張所の取り組み

2016年に関係機関との打合せを行いネズミ駆除のために各機関が取り組むべき内容を確認した。関係機関からはネズミの増殖を防ぐため、植栽を舗装に

変えるなどの物理的な対応を要望された。

a) 区の取り組み

清掃事務所によるゴミ出しルールの徹底や保健所によるネズミの生態調査を行う。

b) 地域の取り組み

定期的な道路の清掃活動を行う。

c) 亀有出張所の取り組み

植栽帯の撤去を行う。

(2) 植栽帯の撤去

関係機関との調整の結果、ネズミの巣が確認された植栽帯は撤去することになった。ただし、一部の植栽帯は試験的に撤去しない方法でネズミ対策を行うことになった。



図-3 撤去された植栽帯（植栽から舗装に変更）

木を剪定してしまうと枝葉が殆ど無い幹だけの状態になってしまう。その結果、低木が枯れる原因や地面に日差しが届くようになることで雑草が生えやすい環境になる恐れがある。低木を撤去し、樹種を草丈の低い地被類に植え替える②案は①案のような問題が生じない。そのため、②案で行うことにし、植栽帯が市街地にあることから日陰でもよく生育し草丈の低めなタマリユウを植えた。また、乱横断防止のため、新たに横断防止柵を植栽帯の車道側に設置した。

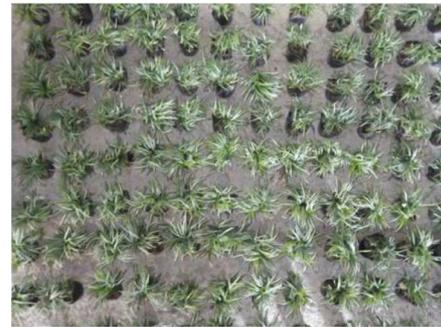


図-4 地被類（タマリユウ）

3. ネズミ対策

植栽帯にネズミが隠れる場所を無くし、巣穴を掘ることが難しい環境作りを検討した。

(1) ネズミ対策の検討

植栽帯の低木には乱横断防止の目的があるため、人が植栽帯を横断できないよう一定の高さで維持管理されている。その結果、低木はネズミにとって身を隠せる場所となり、ネズミが集まりやすい環境となっている。さらに、ネズミは土の中に巣を作るため、植栽帯に巣穴を掘り住み着いてしまう。

a) ネズミが隠れる場所を無くす

ネズミが隠れる場所を無くす方法として、①既存の低木の高さを変更する案、②低木の樹種を変更する案がある。低木は一定の高さを維持するため定期的に剪定を行っている。そのため、剪定の高さを変更することで①案は対応可能であるが、ネズミが隠れられない高さまで低

b) ネズミの巣穴作りの防止

植栽の生育に必要な土は撤去することが出来ない。そのため、地中に網目1cmの細かい金網を埋設し小さなネズミも通れないようにした。また、金網が埋設できない高木周辺には土系舗装を施した。

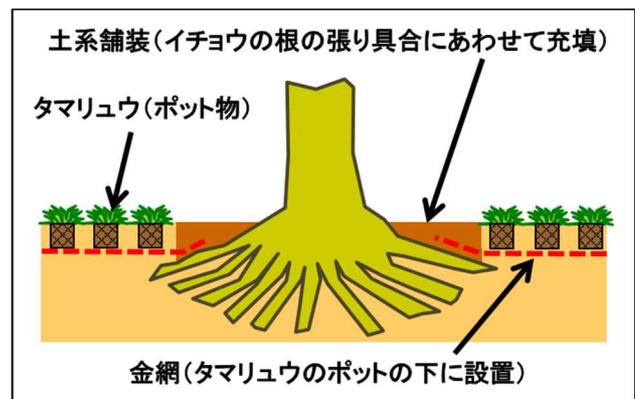


図-5 ネズミ対策イメージ

(2) ネズミ対策の実施

2017年にネズミの巣が確認された2箇所の植栽帯に対してネズミ対策を行った。作業は概ね1週間で完了した。



図-6 ネズミ対策を行った植栽帯

(3) ネズミ対策の効果

2017年にネズミ対策を行った2箇所の植栽帯は、どちらもネズミの巣が作られることが無くなった。関係機関との連携もありネズミに関する苦情は減っているが、2019年、2020年、2021年に別の植栽帯からネズミの巣が確認されたため、2017年と同様のネズミ対策を行った。その結果、ネズミ対策を行った植栽帯からはネズミの巣は確認されていない。

4. まとめ

本稿では、植栽帯を撤去しない方法で行ったネズミ対策について論じてきた。緑地を減らすことなく植栽帯の樹種の変更、金網の埋設、土系舗装による方法で十分な効果が確認できた。今後、ネズミ対策を行う上で有効な手段であると考えられる。

参考文献

- 1) 東京国道事務所：道路維持管理計画書